



第13号
平成24年7月1日発行
発行所 藤香会事務局
092-721-0007
発行責任者 毛屋 嘉明

藤香会の今後の活動について

藤香会副会長・事務局長兼務 毛屋 嘉明



私は、諸岡京子前事務局長の急逝の後をうけて、平成二十二年度、二十三年度の事務局長として本会運営の庶務に携わって参りました。

このたび、中島敏行前副会長の勇退にともない、図らずも事務局長の役を兼務のまま、副会長の任に就くことになりました。

まだ会員としての経験も浅く、わからないことばかりですが、会長の意を体し皆さまの温かいご支援により、私に課せられた重責が全うできればと考えています。

中島前副会長・現顧問が、本紙「藤香会だより」の第十二号で、今後、本会が取り組んでいかなければならない課題として、①会員の新規加入の促進、②関係団体である「黒田奨学会」「福岡市民の会」との緊密な連携、③会運営機構の中で「事務局体制」の機能強化、の三点を挙げておられますが、私もこのことを念頭において、今後の会活動を継続、推進していくことが第一だと考えています。

この理念のもとに本年度は、早速、次の三つのことに取りかかりたいと思っています。その一つは、「藤香会事務所」の新規設置です。この件については、五月の総会でお話ししましたとおり、現在、福岡市警固にあるマンションの一室を借り受けることが決まり、去る六月二十日理事一同出席のもとに、お祓いの神事を

受けて、めでたく「事務所開き」を済ませました。二つ目は、「藤香会ホームページ」の立ち上げの検討です。

三つ目は、藤香会の「NPO法人化」の問題です。この件は、「必要かどうか」から慎重に検討していかなければならないと思います。

なお総会で、口頭での提案をいたしましたように、来年度から会費を一、〇〇〇円値上げして、年会費を五、〇〇〇円にさせていただきますと考えております。

以上、私の抱負を申し述べましたが、会員の皆さま方のご協力をお願いします。

平成二十四年度定期総会開催



山崎 拓 会長 あいさつ

規約による定期総会が、五月二十日(日)、新緑につつまれた鳥飼八幡宮参集殿で開かれました。

十一時に始まった総会には六五名の出席があり、総会に引き続き恒例の「歴史卓話」と、弁当を食べながらの「懇親会」がありました。

1. 総会での主な決定事項 (1) 役員

本年度人事の大きな変化は、これまで約四〇年にわたり、事務局長や副会長の要務を担ってこられた中島敏行氏が、副会長を退かれ顧問に就任されたことです。後任には毛屋嘉明氏が現役職の事務局長を兼任しての副会長就任となりました。

Table with 2 columns: Position (e.g., 名誉顧問, 顧問, 会長) and Name (e.g., 黒田 長高, 中島 敏行, 山崎 拓)

Table with 2 columns: Position (e.g., 総務, 会計, 広報) and Name (e.g., 大島 泰治, 田島 満行, 平田 善積)

(2) 年間行事
本年度は、特別企画の事業計画はありませんが、歴代藩主のご法要、黒田家墓所の春・夏の清掃、福岡藩関係の勉強会、史跡めぐりなど、本会の恒例行事の充実と、恒例行事への市民の皆さん方の、より多くの参加を呼びかける広報活動の強化に努めます。

(3) 報告事項
「藤香会事務所」の設置について
これまで藤香会には、会活動のための事務用品を備え付けたり、理事会などの会議をする場所としての「事務局」がありませんでした。これについてはかねてから理事会でも話題にあがっていましたが、今年にはいって本会の篠原カズエ監事から、「うちの事務所よかったですら」という耳寄りな話ができました。

現在、理事会で検討中ですが、近々か話もまとまりそうです。

2. 卓話

講師 筑前藩維新史研究会

テーマ 「長溥公の先見性と明治維新」

黒田長溥公は、蘭癖大名とも陰口された福岡藩第十一代の藩主です。

薩摩藩主・島津重豪公の九男で、十二歳で福岡藩十代藩主の黒田斉清公の養子となりました。藩主の座にあったのは、天保五年から明治二年までの三十六年間でした。時代は、「勤皇、佐幕・攘夷、開国」で揺れる激動の幕末期です。そのような混乱の世にあつて、長溥公の先見性は他の大名には見られない際立ったものがありました。

『新訂黒田家譜』に見える長溥公の幕府への建白書には、「貿易の自由化を仰せ出されたことは、大変よいことだと存じます」「打ち破き(攘夷)は無謀の軍(いくさ)で、相手を知らず、また自分を知らないことでもあります」などの文言があり、長溥公の先読みの確かさがわかります。

一方、福岡藩には負のイメージとして、勤皇派を弾圧した「乙丑の獄」があります。しかし、当時、これに似た勤皇派の処断事件は、薩摩藩の寺田屋事件の例でもわかるように、他藩でも珍しいことではありませんでした。

長溥公は明治二年に隠居のあと、明治二十年、七十七歳で死去するまで、福岡藩士族の欧米留学援助や黒田学校・英語専修学校の創設など、青少年の学問援助や教育に力をそそぎ、悲運の生涯といわれる中にも、晩年はしあわせな一面も浮かがるようです。(文責・平田)

黒田如水公四〇八回ご法要

三月二十日は、黒田家始祖黒田如水公のご命日ですが、この日は崇福寺に祀られてある初代藩主長政公、四代綱政公、五代宣政公、六代継高公、七代治之公、九代斉隆公の七人の先君方の追善供養の日でもあります。

今年、黒田家十六代当主の長高様を初め、主権の藤香会、それに黒田奨学会、一般市民の方、さらに姫路黒田武士顕彰会、中津黒田武士顕彰会と、総計二〇四名の、これまでにない多数の参詣者があり、盛大なご法要となりました。

黒田忠之公ご法要

忠之公のご命日は二月十二日です。この日は、東長寺を菩提所とされる第三代光之公、第八代治高公、お二人の藩主の回向もいっしょに営まれます。東長寺は式場の関係から、参詣者の人数も限られていて、今年は大六人でした。

恒例の卓話は、「五重塔について」という題で、当日、導師を勤められた藤田紫雲ご住職にお願いしました。

【卓話の趣旨】

ご住職は、いまから三十九年前、高野山での六年間の修行のあと、この東長密寺に赴任されたそうです。

ご住職が、まず着手されたのが、老朽化していた境内伽藍の整備で、その次に取り掛かれた事業が、「福岡大仏」造立でした。そしてこのたび、弘法大師の東長寺創建一二〇〇年にあわせての企画が、純木造の五重塔建立です。さて実際、五重塔建立の計画・設計の段階から、昨年五月十四日の落慶法要を迎えるまでには、数々の乗り越えなければならぬハードルがありました。

まず建設場所が、木造建築が禁じられた防火地域という問題がありました。これについては、建立の位置を街路から三〇メートル余引き込んで、現在地の準防火地域へ移すことで解決できました。建物の命となる用材は四国の四万十松と奈良県の吉野松です。新造の五重塔に安置するお釈迦様のお骨である仏舎利は、弘法大師が唐の都・長安の恵果和尚から預かってこられた八〇粒のお骨のうちの数粒です。これが今、五重塔相輪の下にある、土饅頭型の伏鉢の中に納められているものです。

完成まで三年。高さ二六メートルの屋根は美濃瓦一八、二〇〇枚で葺かれ、四六トンの重さがあります。

藤香会関係 昨年度の主な行事とイベント

月 日	行事・イベント
H23.4.7	「福岡城市民の会」、城内多門櫓中庭にて「観桜の宴」を開催
5.4	博多どんたく港まつり。黒田長高様、城内にて一東一本の儀を執行
5.14	東長寺五重塔、落慶法要。黒田長高様、藤香会から、山崎会長ほか5名列座
5.22	定期総会開催。鳥飼八幡宮参集殿にて 卓話：「崇福寺黒田家墓所のこと」 福岡市教育委員会 三木隆行氏
7.31	崇福寺黒田家墓所、夏の草刈り・掃除。会員50名、ボランティア51名、合わせて100名（墓所一面、伸び放題であるはずの夏草が、ミステリー・サークルよろしく整然と刈り取られている。役員一同びっくり仰天）
8.4	長政公ご法要、崇福寺にて。出席、会員46名、一般市民の方23名、計69名
8.29	住吉神社、横田昌和宮司、就任祝賀会 山崎拓会長、中島敏行副会長出席
9.10	第6回「秋の勉強会」。福岡市博物館にて 講師：博物館学芸員・高山英朗氏。講演「福岡藩主の参勤交代」
10.26	「民陶の里・小石原、城下町秋月」の史跡めぐり。41名参加
12.3	忘年会。平和楼天神本店にて、64名参加。卓話：木下監事「私の健康法」 アトラクション：＜インド舞踊＞ サキーナ・彩子さん
12.27	黒田家関係8社寺、参詣。 中島副会長、毛屋事務局長、村松理事
H24.2.12	忠之公ご法要、東長寺にて。 卓話：藤田紫雲住職「東長寺について」
3.14	「新年のあいさつ」として、福岡市長高島宗一郎氏を訪問 当会中島副会長、毛屋、田島、天本の4役員
3.18	崇福寺黒田家墓所、春の草刈り・掃除 会員45名、ボランティア63名、計108名参加
3.19	当会会員で、筑前琵琶日本旭会総師範の中村旭園さんが、福岡市の「筑前琵琶演奏の無形文化財保持者」に指定される
3.20	黒田藩始祖、如水公409回忌御法要。15:00 崇福寺にて 出席者：藤香会54名、黒田奨学会20名、市民一般75名 姫路黒田節顕彰会40名、中津黒田武士顕彰会15名。 計204 （黒田長高様、ご来福歓迎会ならびに石蔵酒造再生祝い）開催 博多百年蔵にて、出席62名
3.28	「福岡城さくらまつり」点灯式、多門櫓前広場にて。中島副会長出席



第6回「秋の勉強会」。福岡市博物館にて

編集後記

広報担当の任務を、ひと口で言えば、「藤香会のPRをすること」かな、と思っています。藤香会の存在を広く知ってもらうため、昨年度に引き続きがんばります。（平田・村松）

会員クリック⑪

自己紹介

藤香会会員 マイケル・コンタス



マイケルさんは、柳生新影流兵法柳心会の門弟として、長く藤香会の諸行事に参加してこられました。

このたび、藤香会会員に推薦していただいたことを大変感謝しています。外国人として初めて「黒田様の家臣の会」の一員となれましたことを誇りに思っています。師匠の十四代長岡宗家にも大変すばらしいことだと喜んでいただきました。

私はアメリカ合衆国ユタ州ソルトレークシティの出身ですが、来日して二十二年、先代蒲池宗家のときから現在まで二二年間、新影流を学んでいます。

私にとって新影流は「生なる遺産」です。新影流の創立者の魂は今日も技に引き継がれており、その歴史の一部に私が携わっておりますこと、大変うれしく思っております。

稽古をするたびに新影流代々の先祖を想いながら、稽古に励む環境に身を置くことを感謝しています。

いまなお、真なる武道家であるため、また新影流をいかに正しく継承して教えていくか勉強中ではありますが、伝統ある日本の武道を学びたい

と願う、外国人の方々の支えになりたいと思っています。

現在私は福岡天神で英会話スクールの経営と、そこでの講師を務めています。将来はアメリカで道場を開きたいと考えています。これからも新影流に携わったときの初心と姿勢を忘れることなく、稽古に励み精進していきたいと思っております。皆さま何卒よろしくお願ひ申しあげます。

お知らせ

各務章会員が二月七日、八十六歳で逝去されました。各務氏は長く黒田奨学会理事長を務められ、藤香会と奨学会との連携に尽力されました。横田豊会員が二月十一日、逝去されました。横田氏は住吉神社名譽宮司で、八十三歳でした。